学 会 名	リハビリテーション・ケア合同研究大会 （2023年10月26日～27日）
研究テーマ	経管栄養で食事意欲のある患者にKTバランスチャートを活用し3食経口、自力摂取することができた一例
病 院 名	医療法人喬成会 花川病院
演　　者	○藤崎杏菜（看護師） 村田彩華（看護師） 澤田敦子（看護師）

概　　要

【はじめに】
脳梗塞により経管栄養、寝たきり状態で入院した患者。予後予測ではお楽しみ程度の経口摂取と考えていたが、患者本人の食べる意欲に寄り添いKTバランスチャートを活用し、3食経口、自力摂取できた症例を報告する。

【症例紹介】
84歳、女性、右放線冠脳梗塞、保存療法、発症後6カ月経過し当院回復期リハビリテーション病棟入院。経管栄養、ADL全介助状態であった。

【経過】
入院時ADL全介助で栄養管理も経管栄養であったが、本人の食べる意欲に寄り添い経口摂取に向け直接訓練を行った。KTバランスチャート評価により食べる意欲は高かったが、口腔状態・摂食嚥下機能と、姿勢・耐久性の低下が著しく、食事動作も全介助であった。口腔ケアの実施、義歯調整など他職種と連携し口腔衛生に努めた。食べる意欲に対し、経管栄養と併用しながら経口摂取を進めた。また、食事訓練と並行し食べる姿勢が整うよう離床プランを進め、姿勢の安定に伴い、3食リクライニング車椅子で離床が可能になった。さらに食事動作も自力摂取が可能になった。

【結果】全粥、ミキサー食ではあるが、患者本人の希望通り、車椅子乗車し3食自力摂取にまで食事動作が向上することができた。

【考察】
武田らは、脳梗塞を発症後3～4カ月経過しても直接訓練開始が困難な患者に対しては、胃瘻による栄養管理が望ましいと言っている。
しかし、本症例は発症から6か月経過していたが本人の強い食べる意欲に寄り添い、KTバランスチャートを活用した。
KTバランスチャートを活用することで、不足部分や強みを可視化でき多職種で包括的に支援を行った。それにより3食経口自力摂取につなげられたと考える。

【引用参考文献】
小山珠美：口から食べる幸せをサポートする包括的スキル　KTバランスチャートの活用と支援
山田恵理子、西村智子、山中英治、鞍田三貴：急性期脳血管疾患患者の嚥下機能改善に影響を及ぼす因子の検討（日摂食嚥下リハ会誌18（2）：141-149、2014）
尾関保則、馬場　尊、才藤栄一、他：脳幹病変による慢性期摂食・嚥下障害の治療成績、総合リハ、36：573-577
武田有希、大沢愛子、前島伸一郎、西尾大祐、木川浩志：経管栄養で入院した脳卒中患者の嚥下障害の予後予測について（脳卒中33：17-24、2011）